

## 〔国際会議開催〕

申請者	九州大学大学院 システム情報科学研究院 助教 東藤 大樹	2185009
国際会議名称	第 21 回マルチエージェントの理論と実践国際会議 (PRIMA-2018)	
開催期間	2018 年 10 月 29 日～11 月 2 日	
開催場所	産業技術総合研究所 臨海副都心センター (東京都江東区)	
申請者の役割	財務担当委員長	

## 概 要：

PRIMA 国際会議は、1998 年に第一回環太平洋マルチエージェント国際ワークショップ (The First Pacific Rim Intl. Workshop on Multi-Agents, PRIMA1998) がシンガポールで開催されたのが始まりである。2007 年からは名称を Intl. Conf. on Principles and Practice of Multi-Agent Systems と変え、国際会議として毎年開催されている。我が国では複数の人工知能間の協調・協力や人間と人工知能の共存に関して、様々な技術開発が盛んに行われていることと、PRIMA 参加者らが日本での開催を強く望んだことより、2009 年以来 9 年ぶりに PRIMA 国際会議を日本で開催することとなった。PRIMA2018 開催の目的は、マルチエージェントシステム分野の第一線で活躍する研究者や実務者を日本に集め、最先端の研究発表・討議を行うこと、ならびに、日本国内の関連研究者や企業技術者へ、世界の研究者らとの交流・議論の機会を提供することであった。

PRIMA2018 本会議の論文採択率は 28% (88 件中 25 件採択) となり、人工知能分野の国際会議として非常に激しい競争となった。実際、本会議での口頭発表はいずれも質が高く、マルチエージェントシステムの理論や技術に関する活発な研究討議が繰り広げられた。会議全体の参加者 143 名のうち、外国人は 58 名に上り、エージェントに対する国際的関心の高さを伺わせる。さらに、カーネギーメロン大学の Manuela Veloso 教授と、キングス・カレッジ・ロンドンの Michael Luck 教授の招待講演では、日本国内の研究者・技術者へ、マルチエージェントシステムに関する世界最先端の研究・開発動向に触れる機会を提供することができた。